



So many countries, so many kinds of happiness

鳥取県立八頭高等学校 担当教科：英語

細田 順子

◆実践教科：コンピュータ・LL演習 ◆時間数：6時間 ◆対象生徒・学年：国際英語科2年
◆対象人数：39人

カリキュラム

◆実践の目的

日本とマラウイ共和国の生活や文化、環境などを比較することを通して、人々の暮らしや考え方の共通点、相違点を考える。この過程において、異なる文化的、社会的背景を持っているにもかかわらず、一人の人間として互いに持っているであろう普遍的な感情や考えを認識すると同時に、幸せや価値観は国によって異なること、また人によって異なることを気づくことを通して、自身とは異なるもの、ことを受け入れ認める姿勢を育成する。

ココがすばらしい!

英語授業の中で無理なく国際理解教育を取り入れた。「幸せの基準とは?」「そもそも幸せってなに?」という問題設定は、他の教科にも応用できる興味深い題材である。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	Brainstorming What kind of images do you have of Africa?	① ブレインストーミング アフリカに対して持つイメージをグループ（4人構成）でブレインストーミングで、できるだけ多く出していく ② 考えの共有 グループで出たイメージをそれぞれ発表し、クラス全体で共有する	☆ワークシート1 (P.54)
2	Introduction What is Malawi like?	① マラウイの基礎知識 マラウイ共和国の位置、気候、人口、話されている言語など、国に関する基礎的なデータを紹介する ② マラウイの現地映像視聴 マラウイ滞在中に撮影した、村の様子や人々の暮らし、学校の授業風景や生徒へのインタビューを視聴する ※①②を通して、生徒は気づいた点をS(Similar)、D(Different)、I(Interesting)に分類しながらメモを取っていく	☆パワーポイント (統計データ・写真など) ☆DVD ☆ワークシート2 (P.55)
3	Useful Expressions Learn how to express the similarities and differences.	① 有効表現の導入 比較・対照、類似点・相違点を述べる際の表現を、例文を使って導入する ② 有効表現の習得 上記の表現を使って英作文を行い、表現を習得する	☆ワークシート3 (P.56)
4	SDI Activity 1 What are the similarities and differences?	① 個人ワーク パワーポイントやDVD、その他資料として読んだものから、自身で考える日本とマラウイのS(Similar)・D(Different)を挙げていく ② グループワーク グループで考えを共有し、その際、日本語で表現している生徒はグループ内で助け合い、英語に直していく ※S(Similar)・D(Different)どちらにも入ってしまう、もしくは入らないものはI(Interesting)に分類するよう指示する	☆ワークシート4 (P.57)

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
5	SDI Activity 2 What are the similarities and differences?	① 考えの共有 前時でまとめたグループ内の意見を発表し、クラスで共有する ② 理由・背景の考察 S(Similar)、D(Different)、I(Interesting)に分類され挙げた状況の理由や背景を考える	☆ワークシート4 (P.57)
6	Essay Writing Do you think the meaning of happiness differs from Japanese and Malawians?	① フォーマットの確認 トピックに対する自身の意見を論理的に述べるためのフォーマットを説明し、再確認する ② エッセイライティング 辞書を使用しながら、書き始める ※時間内には完成できないので、締め切りを示し、必ず提出するよう伝える	☆ワークシート5 (P.58)

授業の詳細

1 時限目

Brainstorming

What kind of images do you have of Africa?

まずは何の説明もしないまま、ブレインストーミングで生徒たちが持つアフリカのイメージをできるだけ多く出す。このとき、英語にできるものは英語に直しておく。(ワークシート1)

ただ、英語で表現させることに重点を置きすぎると、アイデアが多く出ないことと、簡単なことしか言わなくなるので、そのバランスは難しいが。

生徒たちは、これまでにテレビや新聞などで見た、クローズアップされた事柄のイメージを勝手に膨らませ、ステレオタイプなイメージを持っていることがわかる。

生徒が出したアフリカのイメージは…?

- ▽ 背が高い
- ▽ ジャンプ力がある
- ▽ 足が速い
- ▽ 動物がいっぱいいる
- ▽ 大家族 (子どもがたくさんいる)
- ▽ 明るい (いつも笑っている)
- ▽ きれいな水が飲めない
- ▽ 病気が多い

etc.

これまでに、何度かアフリカから鳥取大学に留学している学生を招いて国際交流会を行ったことがあり、そこで得た知識や、自分で興味を持って調べたりしたことなどをもとに発言する生徒もいた。



ブレインストーミング中の生徒たち
些細な話から、キラッと光るアイデアがでることも…

2 時限目

Introduction

What is Malawi like?

パワーポイントでマラウイの位置や人口、話されている言語や食べ物、衛生状況などを説明する。続いて、マラウイ滞在中に現地で撮影してきた映像を視聴する。同時に生徒たちは、この間、日本もしくは自分たちの生活と比較し、S(Similar)、D(Different)、I(Interesting)に分類しながらメモを取った。(ワークシート2)

前時で出した自分たちのイメージと、実際目で見て耳で聞く情報とに隔たりがあることを認識することは今後の活動において、とても大切な要素となる。自分たちの思い込みや勝手な判断ではなく、実際の情報を客観的に受け入れたうえで、異なるものを受け入れていく姿勢育成の第一段階と言ってよい。

またマラウイの映像は町の様子と学校の様子と合わせて20分程度で、これだけでは生徒がすべてを把握することはできない。そこで、生徒たちに質問シートを配り、疑問を持った点を書いてもらうことにした。

集まった質問は、類似した質問などを集約すると、合計90項目。希望的としては、ひとつひとつ主なものを紹介しながら私とその質問に答え、みんなで考えていく、というプロセスを踏みたかったが、そのような時間はなく、書面に質問・回答の双方を落として配布することにした。生徒からの質問は、単純で素朴なものから、こちらがはっとさせられるような鋭い視点のものまで様々であった。

生徒が出したアフリカのイメージは…？

- ▽給料は平均的にいくらくらいもらえるのか？
- ▽走るのやっぱり速かったか？
- ▽家族はみんな同じ部屋で寝るのか？
- ▽どうやって、トイレに人が入っているのを確かめるのか？
- ▽かまどに火をつけるとき、どうやってつけるのか？
- ▽魚介類は食べているのか？
- ▽給食はあるのか？
- ▽爪や髪の毛はどうやって切っているのか？
- ▽なぜマラウイの人は笑顔でいられるのか？
- ▽なぜ人が集まると、踊ったり歌ったりするのか？

etc.

マラウイの人は世界でも最貧国と言われ、暮らしも簡単ではなさそうに見えるのに、なぜ映像の中の人々は笑顔なのか、と書いてきた生徒がいた。この質問は、まさにこの授業のメインテーマでもある“ところ変われば幸せ変わる”の核心をつく質問である。この質問に対する答えは、生徒たちが自分で考え、最後のまとめであるエッセイライティングにそれを反映させるよう、生徒たちには話をした。



DVD視聴中
興味津々で、マラウイの生活の様子を見る



ALTの助けも借りて
英作文の練習は、積極的にALTに質問するとはかどる！

3時限目

Useful Expressions

Learn how to express the similarities and differences.

このコンピュータ・LL演習は、主にエッセイライティングを通して、自己表現力の向上を目的としている科目である。このユニットでも最終的には、自身の考えをまとめ、エッセイを書くので、そのために有効な文構造や表現を習得する必要がある。今回は、日本とマラウイのSDIなので、比較・対照や類似・相違を表す表現を取り入れた。(ワークシート3)

グループワークで活動するが、生徒たちは例文を理解したうえで、それを使った作文練習をこなしていく過程で、理解度の高い生徒は積極的に他の生徒に教え、わからない生徒も素直に質問していく。互いに協力して進んでいく風土を育むことも、グループワークを多用する目的のひとつと言える。

4・5時限目

SDI Activity

What are the similarities and differences?

いよいよ、このユニットのメインアクティビティ、SDI活動を始める。SはSimilar、DはDifferent、IはInterestingで、それぞれの頭文字をとってSDIと呼んでいる。これまでにインプットした情報をもとに日本とマラウイの文化、暮らし、環境などを比較し、それぞれSDI的な項目を挙げていく。この活動でもっとも大切なのは、いかにI；Interestingをたくさん出すか。相違点は簡単に目につくので、視点を変えて類似点を多く見つけることが第一のステップである。「なぜ、こんなに文化的、環境的に異なる二つの国の間に類似点が生まれるのか？」という視点から、「これって不思議、おもしろい」という考えにたどり着けば、エッセイライティング中の具体性や理由付けが多様性に富み、興味深いものになっていく。その視点を変えるためのきっかけ作りとして、グループワーク中に私がマラウイから持ち帰ったものを、各グループを回りながら披露した。紙幣、教科書、工芸品などをエピソードとともに紹介し、同時に生徒からも短時間ではあったが、質問を受けた。



百聞は一見にしかず
ものの威力はスゴイ！
発想の転換を生むきっかけに
なることもしばしば…

自分できっかけさえ見つければ、生徒たちの発想はどんどん膨らむが、一旦立ち止まってしまうとそこから抜け出られなくなることがよくある。例えば、生徒が書いていた相違点に“The staple food in Malawi is Nshima, unlike Japan where it is rice.”(日本では主食は米だが、マラウイではシマである)というのがあった。これは確かに主食そのものだけを見れば相違点だが、「シマも米のように味がなためおかずとともに食べる」という発想をすれば、明らかにパンをおかずとともに食べないパン食文化の国と違って、日本とマラウイは主食の食べ方(あり方)として類似点を持っている。このように誘導尋問ではないが、生徒と会話を交わしながら、有効な“eye opener”になり得るものを与えていけば、生徒の発想は豊かになる可能性を大いに秘めている。

生徒のSDI

- ▽ The way of communication with neighbors in Malawi is similar to that of “Showa” in Japan.
- ▽ Infrastructures, for example, roads, schools, hospitals etc. are not maintained enough, unlike in Japan.
⇒ If they had everything, would they be happy?
It depends on a situation or a person.
- ▽ Malawians have meal with their hands, unlike in Japan.
⇒ Really? What about sushi?

etc.

次にそれぞれのグループから出た意見をクラスで共有したうえで、その状況が現れる背景を考える作業を行なった。例えば、マラウイの学校には机や椅子がないという状況に対し、なぜその状況が起こっているのかを考える。例えば、椅子や机を買うお金がない、作る技術がなく輸入しなくてはいけないので高いといったことから、では机と椅子を先進国が寄付すれば喜ばれるのか、それとも技術を導入することがいいのかなど、状況の背景にある様々な理由を考えていく。

ある生徒は、マラウイの人は本当に机と椅子がもらえたら(買えたら)うれしいかどうかはわからない、という意見を出した。その生徒が言うには、マラウイの人は、机と椅子がないことに慣れているから、突然机と椅子に座りなさいと言われても戸惑うかもしれない、机と椅子がないのは気の毒だと言うのは普段それに慣れている人たちの言い分ではないかと。

このような発想は「ものがないことは不幸で可哀相」といったステレオタイプなそれとは異なり、より深くまた多角的に考えるきっかけとなる。このような意見が出て、クラスでシェアできたことは生徒たちにとって刺激になったに違いない。

6時限目

Essay Writing

Do you think the meaning of happiness differs from Japanese and Malawians?

今回のエッセイライティングのトピックは“Do you think the meaning of happiness differs from Japanese and Malawians?”である。

これに対し、Yes またはNoの立場を明確にしたうえで、その意見を支える具体事例、理由を列挙し論を展開していく。(ワークシート5)

これまでは、Controversial(賛否両論の)なトピックを取り上げていたので、必ずエッセイのボディにCounterargument(反論)を盛り込むことを原則としていたが、今回は比較・対照が重点のエッセイであるため反論を加えず、論を展開する。いつもとはやや異なる全体構成の確認をしたあと、時間いっぱい使ってライティングを始めた。これまで取り組んできたエッセイライティングでは、生徒たちは平均でおよそ300語、もっとも多く書く生徒では600語を超える語数でエッセイを仕上げている。論の展開には甘いところもあるものの、回を追うごとに事例や理由付けは具体的になり、自身の意見を支えるボディ部分の展開に大いに改善が見られた。今回は提出締め切りがこの報告書に間にあわないため、結果はわからないが、生徒たちが学んだ事例をもとに“the meaning of happiness(幸せの意味)”にどのような意義を見つけてくるか、非常に楽しみである。

成果と課題

(1) 成果

① the meaning of happinessの考察と自身の生活の振り返り

このユニットのテーマである“the meaning of happiness(幸せの意味)”を考えることで、生徒にみんながそれぞれ幸せ(な状態)になるには何が必要で、それはどのように実現されるのか、ということを考えるきっかけにできたことは有意義であったと考える。また、SDI活動の中で出たように、自分たちがいいと思っていることがそのまま相手に当てはまらないかもしれないこと、つまり幸せはおそらく人によって異なる場合があること、一方でどのような状況でも一人の人間として最低限持っているべき権利や状況があることに対し、気づきを促せたとすれば、このユニットの目的の大半はカバーできていると言ってよい。さらに発展させ、自身の生活は幸せだろうか、またどうしたら幸せになれるのか、進路決定などを控えた2年生として、そこまで考えるきっかけになればさらに成功である。

②国際協力への理解と興味関心の向上

上記①に関連するが、先進国が開発途上国を援助、支援する際に何をどうすることが最善なのか考えるきっかけになったことも成果のひとつとして挙げられる。ものやお金を寄付することだけが幸せを生み出すのか、もしそうでないとすれば、どのようにすることが有効なのか、生徒の意見の中に見られたことも収穫であった。

(2) 課題

①インプット素材の選定と量の見極めおよびその導入の方法

私は今回マラウイに行かせていただいたが、生徒たちはまるで見たことも聞いたこともない国の状況をもとに、“幸せ”という何とも定義の曖昧なものを自分なりに見極めなくてはならない。自身の考えを展開するためには考えの根拠となる十分な材料が必要であるが、その材料、いわゆるインプット素材をどのくらい、どのように与えるかが今回のユニットの大きなポイントとなることはわかってきた。しかし、いざやってみると、授業が進むにつれて生徒の興味も増し、それは質問という形になり私にぶつかってくるが、その疑問をどのくらい私から“与える”という形で解消するべ

きなのか、そのバランスに最後まで苦慮した。パワーポイントとDVD以外にもインターネットからの素材をいくつか導入したが(資料1と2)そのインプット素材が誘導尋問のようになりはしないか、また異なる様々な視点のものが公平に揃えられているか、など配慮すべきことは多い。また素材の導入方法として生徒が疑問を自らの手で解消する「調べ学習」を行なうことはどうだろうか。今回は、文部科学省の研究指定校(Super English Language High School)としての公開授業にこのユニットがあたっていたため、時間的な調整が難しく実現しなかったが、生徒の自主的な活動として有効だったに違いない。

②英語の使用率と考える活動のバランス

この科目はあくまで英語の授業なので、最終的に英語でエッセイを書くのだが、その過程で生徒は英語をどのくらい使用するべきなのか、このユニットに限らず迷う。複雑なことを多角的な視点で考えることは、高校生にとっては日本語でも難しいのかもしれないが、国際英語科という学科の特性も考えると、さらにチャレンジングではあるが、教員も生徒も考える過程から英語の使用率を上げていくことも必要であろう。

参考資料

【ホームページ】

The information from The Africa Guide <http://www.africaguide.com>

NHK新BSディベートスペシャル <http://www.nhk.or.jp/bsdebate/0806/malawi.html>

別添資料

- ・資料1 (P.53)
- ・ワークシート1~5 (P.54~58)



資料 1

About Malawi



The information from The Africa Guide
www.africaguide.com



PEOPLE

Malawi is often called the "warm heart of Africa." because of the warmth and friendliness of the people. Malawians typically live with their extended families in huts that are grouped together in villages. A spirit of cooperation prevails as family members share both work and resources.

Malawi has a population of about 10,000,416 (July 1999 est.), with 90% of the population living in the rural areas, and population growth rate of 1.57% (1999 est.).

The Malawi people are of Bantu origin with the ethnic groups including Chewa, Nyanja, Yao, Tumbuka, Lomwe, Sena, Tonga, Ngoni, Ngonde, Asian and European.

The Chichewa (Chewa) people forming the largest part of population group and are largely in the central and southern parts of the country.

The Yao people are predominately found around the southern area of Lake Malawi.

Tumbuka are found mainly in the north of the country.

There are very small populations of Asian and European people living mainly in the cities.

LANGUAGES

English is the official language and is very widely spoken, particularly in main towns, but sometimes also in remote rural areas.

Chichewa/Chinyanja

Chichewa, is the common national tongue widely used throughout the country where, from 1968 until recently, it has served as the national language.

COOKING & RECIPES

The staple diet is white maize eaten with vegetables and, on occasion, fish or meat.

RELIGION

Religious Groups

The Chewa people, who form the largest part of the population predominantly Christian/Protestant and the Yao people are mainly Muslim

The religious groups in Malawi can be broken down approximately as follow:

Protestant 55%

Muslim 20%

Roman Catholic 20%

for traditional indigenous beliefs and other minor religions 5%

MUSIC

The music traditions of Malawi are rich with cultural influences that include those of the Zulu Ngoni people from South Africa, the Islamic Yao people of Tanzania and others.

Most tribes have their own individual songs and dances. Common musical instruments found include drums, the mambilira, (which is similar to the western xylophone) rattles of different types and sizes, shakers which are tied to dancers' legs and arms and are often know as maseche.

ART & CRAFT

Malawi produces various colourful arts and crafts which are handworked to a high standard.

There are many craft markets spread throughout the country and along the roadsides.

Chief chairs are a very popular item and can be found throughout the country.

The batiks in particular capture the vibrancy of Malawian culture, depicting the traditional with a modern appeal. Batik cloth prints are created using a traditional wax resist dyeing process.

ワークシート 1

WS1

LL005 Unit 5 So Many Countries, So Many Kinds of Happiness

1 Brainstorming

What kind of images do you have of Africa?

What comes to your mind when you think of Africa?



Republic of Malawi



ワークシート 2

WS2

2 Discover the current situation of Africa, especially of Malawi, watching the DVD.
Take notes your findings.

Similar Points	Different Points	Interesting Points

ワークシート 3

LL005 Unit 5 So Many Countries, So Many Kinds of Happiness

3 Useful Expressions – 1



How to describe *similarities* and *differences*

Similarities

- > both A and B ✓ Both Japan and Malawi are small countries in terms of the area of their land.
- > have ~ in common ✓ Malawians and Japanese have a sense of community in common.
- > like ~ ✓ "Nshima" for Malawian is staple food like rice for Japanese.
- > be similar to ~ ✓ The education system of Malawi is similar to that of Australia.
- > the same as ~ ✓ Learning English at school in Japan is difficult, the same as learning French at school in Canada.
- ✓ Learning English at school in Japan is important, and it is the same as in Malawi.
- ✓ Malawi has a beautiful landscape, but Tottori also has lovely scenery.
- > also

Differences

- > be different from ✓ Tottori winters are different from Malawi winters in that (because) there is ice and snow.
- > unlike ✓ There are many varieties of foods in Japan, unlike Malawi where meals are simple.
- > one is ~ and the other is... ✓ In Malawi, they have mainly two local Languages. One is Chichewa and the other is Tumbuka.
- > while ✓ Many Japanese live in urban areas while about 85% of Malawians live in rural areas.
- > on the other hand ✓ Japanese depend on TV or Internet in getting various kinds of information, on the other hand, people in Malawi get information mainly from radio.
- > in contrast with ✓ Canada has an abundance of water, especially in contrast with the relative shortage in Malawi.

3 Useful Expressions - 2

WS3

[Let's practice!]

Translate the Japanese into English by using the useful expressions.

- 1 確かに英語はマラウイの公用語だが、一方で多くの人は、他の部族語も話す。

.....

.....

.....

- 2 多くの異なる部族がいるマラウイと違って、日本は多くが日本人である。

.....

.....

.....

- 3 (ろうけつ染めの) 布は、マラウイの人気の品だが、とてもカラフルであることから、日本の着物と似ている。

.....

.....

.....

- 4 日本の学生とマラウイの学生はそれぞれ違うが、双方とも共通して未来に夢を持っている。

.....

.....

.....

Create your own sentence by using the useful expressions.

.....

.....

.....

.....

ワークシート 4

WS4

4 Similar, Different and Interesting Activity (SDI)

Task 1: Categorize your findings and write them down.

Task 2: Think about the reasons or the background for the situations where they happen.



